

「米州大陸の工場」として 注目を集めるメキシコ

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

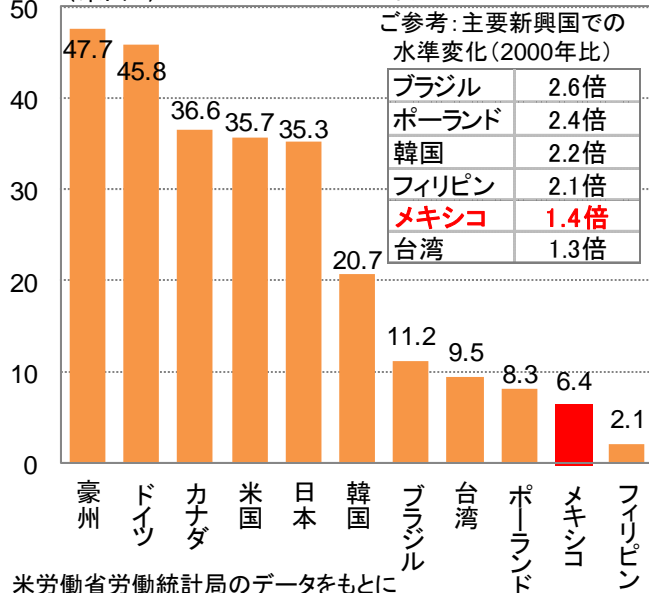
メキシコは、①大消費地である米国や成長の期待される南米に隣接するという地理的優位性、②若く、豊富な働き手、相対的に低く、安定的な賃金といった労働分野の強み、さらに、③世界44カ国、GDPベースで世界の約6割を占める国々とFTA(自由貿易協定)網を築いており、それらの国々に無税ないし低関税で輸出を行なえるという貿易上の優位性、などを強みとしています。これらの強みを背景に、同国は海外からの活発な直接投資や企業進出を導くことに成功し、自動車分野などを中心に、米州大陸における主要製造・輸出拠点となることで成長率を押し上げています。

1994年にNAFTA(北米自由貿易協定)が発効し、米国、カナダ、メキシコ間の関税・非関税障壁が削減されると、いわゆる「ビッグスリー(GM、クライスラー、フォード)」がメキシコで米国向けの自動車生産を拡大しました。こうした経緯などから、自動車分野でメキシコを生産拠点としてきたのはこれまで主に欧米メーカーでしたが、ここ数年は日本メーカーの進出が活発化しています。さらに、欧米メーカーも含めた完成車メーカーの生産拡大に伴ない、自動車部品メーカーの進出も加速しており、今後は、自動車関連産業のすそ野の広がりが、メキシコの成長を支えると見込まれます。

なお、日産自動車のゴーン社長は12日、メキシコに建設した新工場の稼働式典で、「メキシコは世界の自動車産業のキープレイヤーとなる」と述べ、同国での生産台数を16年までに日本と同規模の年100万台に引き上げる構想を表明しました。これに伴ない、メキシコは日本を抜き、同社にとって世界最大の輸出拠点となることが確実視されています。こうした事例が象徴するように、メキシコは上記の強みを活かし、「米州大陸の工場」としての存在感を今後一層、高めていくと見込まれます。

主要国製造業の時間当たり雇用費用の水準

(米ドル) (2012年)



主要国・地域のFTAカバー率

(2012年、%)

	FTA カバー 率	FTA発効相手国・地域					
		1位		2位		3位	
メキシコ	81.3	NAFTA	66.6	EU	8.5	日本	2.7
EU	73.6	EU	63.3	スイス	2.6	EEA	1.6
カナダ	67.7	NAFTA	65.4	EFTA	1.2	ペルー	0.5
ASEAN	59.7	ASEAN	24.5	中国	13.3	日本	10.6
米国	39.4	NAFTA	29.0	韓国	2.6	DR-CAFTA	1.6
韓国	35.3	ASEAN	12.3	米国	9.5	EU	9.3
豪州	26.9	ASEAN	14.5	米国	7.6	ニュージールランド	3.0
日本	18.9	ASEAN	15.3	インド	1.0	メキシコ	0.9
インド	18.3	ASEAN	9.7	日本	2.5	韓国	2.3
中国	16.6	ASEAN	10.3	台湾	4.4	チリ	0.9

FTAカバー率は、FTA発効済み国・地域(2013年6月末時点)との貿易が全体に占める比率(2012年の貿易統計ベース)

EU(欧州連合)、ASEAN(東南アジア諸国連合)、NAFTA(北米自由貿易協定)、EFTA(欧州自由貿易協定)、DR-CAFTA(米・中米・ドミニカ共和国自由貿易協定)、EEA(欧州経済領域)

出所: ジェトロ

米労働省労働統計局のデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

※掲載銘柄について売買などを推奨するものではありません。また、弊社ファンドにおける保有の有無、並びに将来の組入れもしくは売却を示唆するものでもありません。※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。